

Bonjour

ボンジュール!!

2015年
6月17日号

Vol.227



黒田総裁の口先介入で、「円安」はようになる？

● 黒田発言で為替が動いた！

「実質実効為替レートでみると、ここからさらに円安になることはありそうにない」との黒田日銀総裁の発言をきっかけに6月10日、円相場は一気に円高(ドル安)に振れました。

このように発言だけで為替相場に影響を与えることを、「口先介入」といいます。

● 「口先介入」とは？

ときに、大きく円安・円高の方向に振れることもある為替相場。こうした大きな為替相場の変動がもたらす実体経済への影響を緩和するために、当局が為替介入を行うことがあります。

為替介入とは、「円売り介入」や「円買い介入」など実際に通貨の売買を行うことで、為替相場を動かすことです。しかし、**実際に介入を行わなくとも、要人がそれを示唆する発言をし、市場心理をコントロールすることで為替介入と同様の効果を得ることも可能です。それが、「口先介入」です。**

例えば、米連邦準備制度理事会(FRB)の要人が利上げを示唆したら米ドル高が進行したり、欧州中央銀行(ECB)のドラギ総裁が追加の利下げを示唆したらユーロ安が進行したり、といったことは記憶に新しいところです。

● ところで、黒田総裁の真意は？

黒田総裁の発言は、**円高への転換を図るといよりも、やや急スピードであった円安への動きにクギを刺したものとみられます。**

最近では世界銀行や国際通貨基金(IMF)だけでなく、米国国内でも米ドル高(円安)が景気に及ぼす悪影響を懸念する声が出始めており、日銀としても行き過ぎた円安に言及する意味はあったのかもしれませんが。

その後6月16日、黒田総裁は「円安を望んでいないと言ったわけではない」と釈明しており、やはり実質的な円高を望んだわけではなさそうです。

それを受け、一旦は円高に振れた米ドル・円相場も再び円安(米ドル高)に戻っています。米国の利上げに注目が集まるなか、今後も要人の発言には要注意です。

ドル・円為替レートの推移

(日次、期間:2015年4月30日～2015年6月17日)



出所:ブルームバーグのデータを使用しビクテ投信投資顧問作成

当資料はビクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の対象ではありません。登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。